



各務原市介護保険課と地域包括支援センターでは、各務原市医師会から『もの忘れよろず相談医』として認定された医師の先生に、認知症についての講話をお願いしています。今年度稲羽地区では、那加西野町「永田内科」院長として地域医療に貢献され、また、介護保険の通所リハビリ事業所も運営し、地域福祉や介護予防にも取り組まれている、永田正和先生を講師としてお迎えしました。

(永田先生は平成25年度にも来ていただきました)

＜*以下は、講話の内容のうち、認知症の方の介護や接し方をお話しいただいたところの概略です。記事の内容にご不明な点等がございましたら、包括つつじ苑長谷川までご連絡ください＞

◆認知症：後天的な脳の器質的障害により、いったん正常に発達した知能が低下した状態をいう。

◆認知症介護のコツ：どのように症状が進行していこうとも、介護する人も介護される人も、まったく別の価値観があり、お互いに違うもの。性格、人間関係、思考、生きてきた環境など、すべてが違う人間同士が「前向きに生きる」ためには、良好なお付き合いをとれると良い。生きてきた道筋をお互いに理解し合うこと、プライドを尊重し合うことが、信頼関係を築くことにつながる。

◆認知症ケアの原則：

①『患者さんの自己を大切にすること』間違っただけをしても、言っても否定しない。否定したら関係が悪くなり自分のからに閉じこもってしまう。それを直すには時間がかかる。否定せず、同調しながら正しい方向にもって行ってあげてください。

②『ゆっくりと話しかける』おなじことを三回ぐらいくりかえしてあげてください。ゆっくりとしたテンポや行動や言葉は認知の機能を高めてくれます。

③『声のトーンを落としてください』認知症患者が不安や混乱に陥ったときでも、落ち着いた雰囲気をつくって患者さんを落ち着かせてください。それには声のトーンを落としてゆっくりとお話ししてください。それだけでも解決することもあります。ただし、普段接するときは明るい雰囲気

元気よく挨拶してあげてください。

④『言葉でなく表情を確かめる』患者さんが返答したとき、本当にそうおもっているのか、その表情をよみとりましょう。患者さんの苦しみは静かななかにも表れるものです。

⑤『できないことはさせず、できることからやらしてあげてください』

◆認知症の方への接し方・介護（ケア）するときのポイント：『認知症の病気を理解する』『常に笑顔で接する』『できなくなったことを無理やりさせない』『今までの日常生活をできるだけ続ける』『認知症の方の身体と心の変化を理解する』『プライド（自尊心）を傷つけない』『会話量を増やす（話すときはゆっくり、聴くときはじっくり）』『認知症の方のできること、輝く話題を探す』『認知症になる前の生活、仕事、趣味、人柄を評価する』⇒その人の情報を多くする。どんなことが好きだったのか、どんな仕事をして、どんな人生を送ってこられたのか・・・。

“福祉施設で働いているみなさん、そういうことを知ろうと努力していますか？”

“家では問題ない。家族に対してもそれほど問題はない。でも施設にいるときには問題行動があるなら、それは施設側にもっと考えなくてはならないことがあるのではないのでしょうか”

『認知症の方の人生、過去の生活や体験を思い出させる（回想法）』『認知症の方を人として尊敬する（表面だけでなく、良い点を探す）』

◆物盗られ妄想への対応：「ここに物があつた」という過去の記憶と、「今ここにはない」という現在の状況との間をつなぐ記憶がすべてなくなってしまうことから起こる。認知症の人の心理のひとつである「被害感」と、「物忘れ」が重なって起きるために、このような物盗られ妄想などの被害妄想が起きやすくなると考えられる。単純に記憶をうめるため、前後のつじつまを合わせるためだけに「盗られた」という一方的な妄想に結び付けてしまうのでしょうか。しかも毎日介護している家族や周辺の方が「盗んだ」とする被害妄想のケースが多いのが特徴です。一生懸命尽くしている介護者にとっては、身に覚えのない疑いをかけられるために、混乱してパニックになり、必死で疑いを晴らそうと否定したり、言い返したりすることがあります。でも、このような感情的な対応は逆効果に終わる場合が多いのも事実です。とても傷つくことですが、ぜひ冷静に話を聞いて対処してあげてください。一緒になって探してあげましょう。そして、本人が片付けたことを忘れてしまっていた場合でも、“見つかった”ことを一緒に喜んであげることが大切になってきます。

☆認知症の介護は「愛と感謝と妥協」



地域にお住まいのみなさん、近隣ケアさん、自治会役員さん、民生委員さん、介護サービス事業者さんなど、多くの方々が参加してくださいました。永田先生、参加者のみなさん、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします。

ご意見をお待ちしています。電話 058-371-2226 FAX058-371-8431 (担当 長谷川・石川・林・玉腰)